



PREVIEW

東北芸術工科大学



DOUBLE ANNUAL 2023

又 微心

千真田 尊
アキタ・エミコ・トク
会々
高橋 子
添田 刀成
鈴木 鈴
tag
作家 田家

これから ちから
を生きる
熱 熱
これから ちから
を生きる
微心

又 微心

DOUBLE ANNUAL 2023

出展作家
Giannis Aristotelous
rajiogoo
井本 駿
趙彤陽
中川桃子
服部亜美
アシタクト・キュレーター
奥田知叡
郭禹鎔

KYOTO UNIVERSITY OF THE ARTS
学校法人 瓜生山学園
京都芸術大学

京都開催
2022年
12月12日月
12日水
10:00-18:00
京都芸術大学
人間館1階 ギャラリー・オーブ
会期中無休 入場無料
Galerie Aube

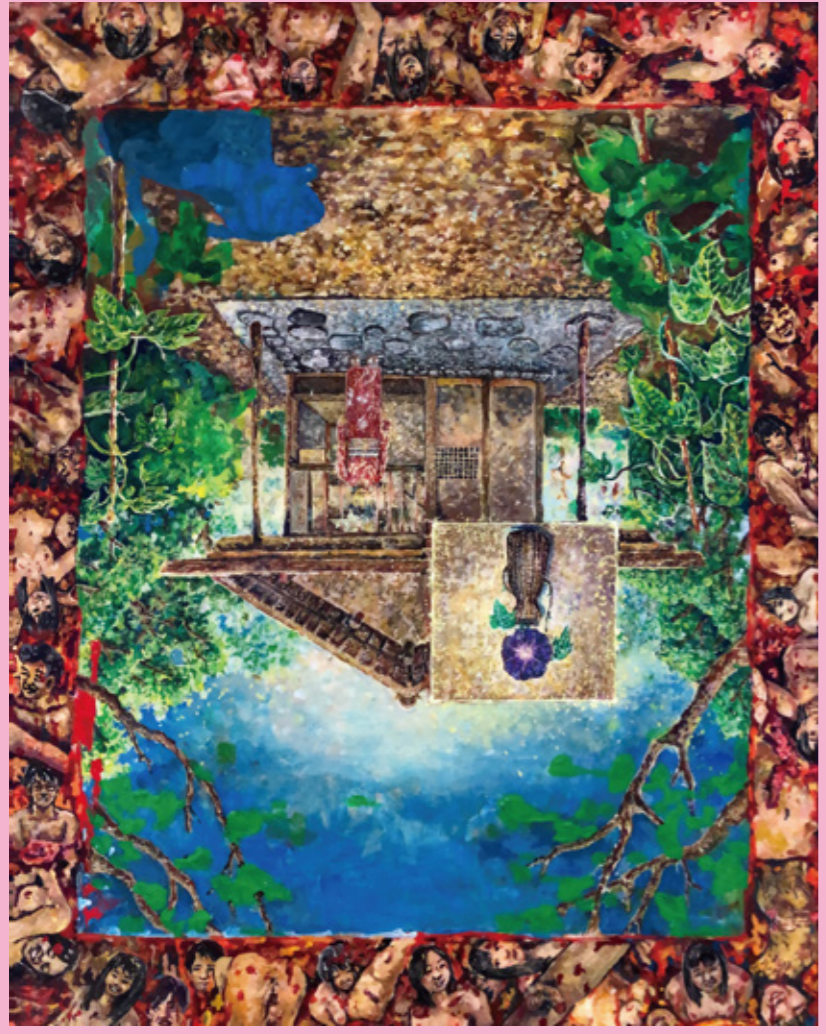
山形開催
2022年
12月14日水
— 22日木
— 9:00-17:00
東北芸術工科大学
本館7F THE TOP
日曜閉館 入場無料

PREVIEW

高橋侑子《げんきもりもりペン》2022



添田賢刀《朝顔の話》2022



PREVIEW

DOUBLE ANNUAL 2023 又微熱

これから生きるちから
主催：京都芸術大学
協力：東北芸術工科大学

本展は京都芸術大学と東北芸術工科大学の学内選抜展「反応微熱」のプレビュー展です。

展示プラン募集にあたり設定されたキーワードは、「抗体・アジール・ミラクル」でした。「抗体」は病原体などが体内に入ったとき、それに対抗するために体の中で作られる物質であり、免疫のもとになるもの。「アジール」は世俗的な権力が及ばない「避難所」。それぞれ、みずからが受ける周囲からの影響・刺激・働きかけに対応する、態度や対処法についてのタームです。また、解決方法がアートの実践として示されることを期待し、「ミラクル」という言葉を提起しました。

私たちの生活の様相を一変させたパンデミックが、3年たった今も継続する中、学生のみなさんから寄せられた展示プランは、その多くが丁寧な思考を経たものでした。一般に若者の特権ともいわれる感情のほとぼしりや自由奔放さは、今回は影をひそめ、それぞれの置かれた場所のこと、心を動かされるもの、違和感や社会的課題に対して、注意深く真摯に向き合う姿勢が浮かび上がっています。

「反応熱」は、化学反応において発生する熱のことを指します。本展では11組の学生が、みずからをとりまく世界から受けたさまざまなものに反応し、それぞれの暫定的な解をアート作品として提示します。その微かながら、たしかにとる熱に、彼らの状況を捉える感性と、これから生きるつよさが表れています。

京都会場 京都芸術大学 人間館1階 ギャラリー・オーブ

2022.12.12月-21水 | 10:00-18:00 | 会期中無休 入場無料

ディレクター：金澤韻

出展作家：Giannis Aristotelous | rajiogoogoo | 井本駿 | 趙彤陽 | 中川桃子 | 服部亜美

協賛：NISSHA

日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社

山形会場 東北芸術工科大学 本館7F THE TOP

2022.12.14水-22木 | 9:00-17:00 | 日曜閉館 入場無料

ディレクター：服部浩之

出展作家：tag | 鈴木藤成 | 添田賢刀 | 高橋侑子 | 出会プラス

アシスタント・キュレーター：奥田知叡 | 郭禹喆 | 千田真尋

DOUBLE ANNUAL

「DOUBLE ANNUAL」は2023年2月25日(土)より国立新美術館にて開催される、京都芸術大学ならびに東北芸術工科大学の全学部生と院生を対象とした学生選抜展です。京都芸術大学は2017年度より、学生選抜展に第一線で活躍するキュレーターを招聘し、キュレーターの提示したテーマにตอบสนองする形で、キュレーターから制作指導を受けながら展覧会をつくり上げる実践的な芸術教育プログラムに挑戦してきました。6年目を迎える今回は、姉妹校である東北芸術工科大学からも学生選抜を行うプロジェクトへと発展させ、京都と山形という二つの異なる地点から、芸術教育のあり方を問い直し「アートになにができるのか」問いかけます。そして今回両大学それぞれで行われるプレビュー展(中間発表)は「DOUBLE ANNUAL」の大きな特徴のひとつ。国立新美術館での展示の前段階で、キュレーターから作品や展示方法について直接指導を受け対話することで、作家がさらに改良や改善を重ねることができ、芸術教育としても非常に教育的効果の高い展覧会の構成となっています。プレビュー展を踏まえ、国立新美術館での展示をご覧いただくと、作家の軌跡や成長が感じられます。

DIRECTORS



総合ディレクター
片岡真実

森美術館館長、京都芸術大学大学院客員教授。2017-2019年度KUA ANNUALディレクター。芸術監督として、第9回光州ビエンナーレ(2012年、共同監督)、第21回シドニー・ビエンナーレ(2018)、国際芸術祭「あいち2022」なども兼務。

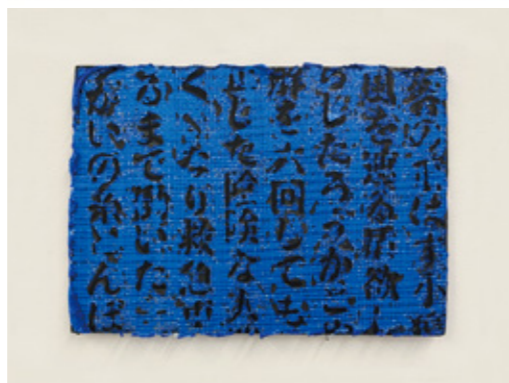
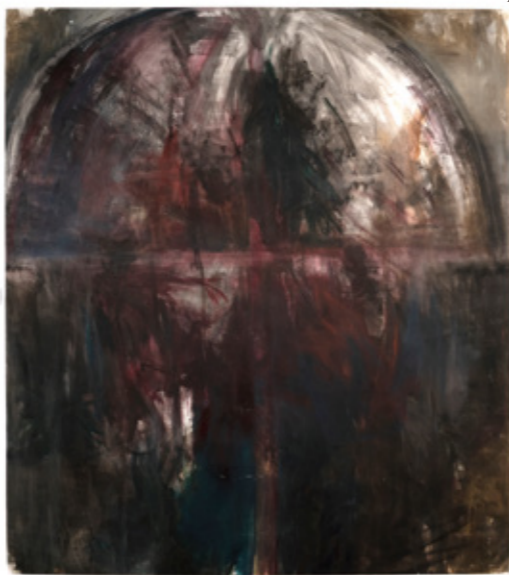
ディレクター
京都芸術大学 担当
金澤韻

京都芸術大学客員教授、現代美術キュレーター。公立美術館勤務後、2013年よりインディペンデント・キュレーターとして活動。メディアアート、漫画、地域とアート、障害とアートなど既存の美術の枠を超える領域を扱う。株式会社コダマシーン共同代表。現代美術オンラインイベントJP共同主宰。2016年より上海拠点。



ディレクター
東北芸術工科大学 担当
服部浩之

キュレーター。東北芸術工科大学客員教授、東京芸術大学大学院映像研究科准教授。2020-2021年度KUA ANNUALディレクター。アジア各地で新しく生まれる表現活動を調査研究するなかで、異なる領域の応答関係に関心をもち、様々な表現者との協働を軸にしたプロジェクトを展開する。近年の企画に、第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」(2019年)がある。



公開講評会 | 京都

12月17日土 15:00-17:30

入場無料

講師：片岡真実 | 金澤韻 | 服部浩之

公開講評会 | 山形

12月16日金 17:00-19:00

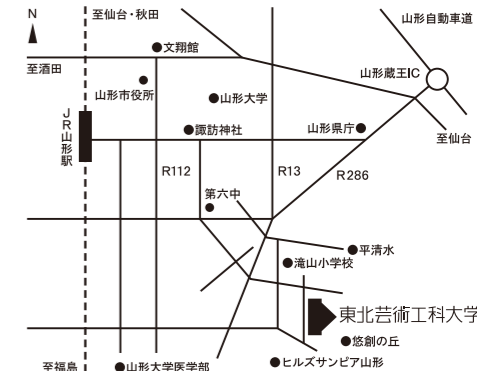
入場無料

講師：片岡真実 | 金澤韻 | 服部浩之

※学外からお越しの方：新型コロナウイルス感染症対策のため、本館入口での検温、入館記録簿への必要事項の記入、入館証の携行をお願いいたします。



京都芸術大学
人間館1階 ギャラリー・オーブ
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山12-116



東北芸術工科大学
本館7F THE TOP 〒990-9530 山形県山形市上楳田3丁目4番5号

- 1 京都会場
Giannis Aristotelous
《Semi-Circle X-Ray》
2022
- 2 京都会場
rajiogoogoo
《泣き子党》
2022
- 3 京都会場
服部亜美
《信仰と痕跡》
2022
- 4 山形会場
鈴木藤成
《タイトル未定》
2022
- 5 京都会場
井本駿
《デザイアトイ》
2022
- 6 山形会場
tag
《MAFUK-2022SS.I- はじまり1》
2022
- 7 山形会場
出会プラス
《기록/活動》
2022